

令和2年4月30日
文化ファッション大学院大学
学長 濱田 勝宏

院生の皆さんへ

院生の皆さん、社会全体が新型コロナウイルスの感染防止のため騒然とした世情の中で、大学院も学年始めのスケジュールが変更・中止を余儀なくされているため、多くの皆さんが落ち着かない毎日を過ごしていることと拝察致します。加えて先の見通しが立たぬまま、暗いトンネルの中を手探りで歩いているような心境の人も少なくないでしょう。

前代未聞の状況下で、新年度の開始にあたり皆さんへ何らかのメッセージを送る機会を逸してしまいましたこととお詫びいたします。今日は、遅まきながらそのような気持ちで一言、思うところを申し述べたいと思います。

年度末から年度始めのスケジュールの変更や中止などについては大学院からお知らせしてきました。異例尽くめの毎日に戸惑いを感じる院生の皆さん、また、様々に来るべき学事日程の変更とその代替の策を考えるにあたり苦悩と検討に明け暮れる教職員、双方ともに気の休まることのない日々の連続です。「緊急事態宣言」が発出され、5月6日まで（4月29日現在）、いわゆる「三密」を避けるための各種の「自粛要請」がなされています。異常尽くめな状況に対し、本大学院でも様々な取り組みを模索する作業が、教職員すべての共同でなされて来ました。それらは、健康と安全に最大の注意を払いながらの努力に他なりません。

その意味では学生の皆さんも、同様であると言えます。嘆きや不平ばかりでは前進は見込めません。そのことを十分理解しているであろう皆さんは、若干、大学院のカリキュラムから距離を置きながらも、比較的自由に使える現在の時間を活用して、「そもそもファッションとは何か」、「ファッションとグローバリゼーション」、「ファッションとこれからの人間と社会」などなど、大学院生としての基本命題に改めて取り組むことも意義あることでしょう。

また、人類は今回の新型コロナウイルス感染症のみならず、歴史的にもペスト、コレラ、マラリア、近年のSARSなど数多くの難題に対峙し、多大な犠牲を払いながらもそれらを克服してきたのです。今回も人類の英知と努力が新たな歴史的金字塔を樹立すると信じたいものです。即ち、皆さんには今こそ、これら人類の（苦難を伴いながらも）残してきた足跡を改めて記憶に留めてほしいと私は願っています。

先の見えない日々ではありますが、改めて申します。皆さん、大学院生であることの自覚と誇りを持ってください。そして、目前の課題と取り組むことを不断に続け、いずれは大きな目標に対して素晴らしい知見をもたらすであろう研究・創造の覚悟と姿勢を失うことなく、頑張ってください。

皆さん、いずれキャンパスでお互いに考え学び、また真摯な議論ができる日が来ることを信じましょう。それまでは、様々なIT技術などを駆使して、お互い励まし合い意見を交換するなどして、大学院らしい学的雰囲気形成するよう努力しましょう。